

奈良市総合計画審議会小委員会（第7回） 会議録

1 日時 平成22年12月28日（火） 午前10時00分～12時00分

2 場所 奈良市役所 中央棟5階 キャンベラの間

3 出席者

【委員】伊藤忠通委員長（第1部会長）、石川路子委員、高橋敏朗委員（第2部会長）、
根田克彦委員、安村克己委員
杉江雅彦委員（審議会会長）、坂本信幸委員（第3部会会長）
（欠席 宇野伸宏委員、舟久保敏委員）

【市職員】市長（途中退席）、福井副市長、津山副市長、企画部長、企画政策課長他
職員

4 会議事項

- 奈良市第4次総合計画（案）基本構想
- 奈良市第4次総合計画（案）基本計画

※公開で審議。傍聴人は5人。

5 配布資料（別紙）

奈良市第4次総合計画（案）（追加、修正、削除箇所表示あり）

6 議事の要旨

- 市長より
 - ・年末の忙しい時に時間をいただき、ありがとうございます。先日の総合計画案について、修正点を反映させる作業を行うとともに、端から端まで改めて点検し、ご審議頂ける資料として作成した。
 - ・年明けにも小委員会の開催をお願いできればと考えており、限られた時間ではあるが、幅広い意見をいただきたい。
 - ・前回同様、中座させていただくが、ご議論よろしくをお願いします。

（1）奈良市第4次総合計画（案）基本構想について

- 伊藤委員長より

・時間も限られているので効率的に会議を進めたい。今日は基本構想を中心に議論し、基本計画は修正案の中で大きく変わった点を事前に知らせていただき、次回の議論の参考にしたい。

- 企画政策課長が、資料に基づき、奈良市第4次総合計画（案）基本構想の修正点を説明。

○ 委員の質問・意見は次のとおり。

伊藤委員長☞ 本日の資料は、議会特別委員会からの指摘を受けて修正されたもの。

一番大きな問題は、都市の将来像を見直して欲しいとのことであるが、いかがか。

根田委員☞ 小さなことになるが、3頁の「2. 財政健全化の推進」に「企業や大学等の積極的な誘致…」とあるが、大学を入れた意味は。あとの教育や研究機関を意識したものであろうが、奇異にとられないか。

「3. 環境保全と地域資源の活用」等に「歴史的な文化遺産」とあるが、そもそも文化遺産は歴史的なものであるので、妙な感じがする。

「5. 行政運営・まちづくりにおける新しいシステムの構築」では、パートナーシップと協働を意識した指摘があった気がするが、「民間のノウハウも取り入れた運営手法」という表現では、市役所が先に出た感じがするので、「協働」を意識した表現の方が良いと思う。

→〔事務局〕当初の「歴史・文化遺産」より適切な表現と考えて修正したもの。

当初は、高次教育施設としていたが、何を指すのかわかりにくいと考えて修正した。

根田委員☞ 研究機関や高次教育施設にすればよいのではないか。

高橋委員☞ シンボリックな言葉として「企業、大学」が使われることがある。大阪市内でも使っており、奇異なものとは思わない。

根田委員☞ 産業集積の場合は、企業と研究機関を対にして使うと思うが、それとは違うか。

高橋委員☞ 教育に重点をおく「大学」という言葉で代表させている場合は結構ある。

坂本委員☞ 「長い間誘致を図ってきませんでした」とあるのは、明確に企業や大学を誘致することを打ち出したという主旨で良いか。

→〔事務局〕企業誘致は検討していかなければならないと考えるが、どこまで積極的に進めるかに関して具体的な計画はない。

坂本委員☞ 市の合意として、経済的には貧しくても文化遺産を守った生活を送る市でありたいという方向もあるし、そうでない方向もある。産業自体が、環境に資するものなどフィルターをかけたものであれば良いが、突然「産業」とあるのは少し奇異な感じもする。「企業」の前に「市勢に応じた」というような言葉が入るイメージ。

高橋委員☞ 当然フィルターはかかる。煙がもくもく上がるような産業は奈良市には

向いていない。企業の研究所など、生産を中心としない産業（が向いている）。

→〔市長〕 ここでは、煙がもくもく上がるような産業は意図的に誘致してこなかったという側面と、フィルターをかけたものに対しても誘致してこなかったこと。観光の話を併記しているように、産業育成や誘致についてどの手段も講じてこなかったという現状として区切って、これに対して、できることとできないことを絞り込んだうえで手を打ってこういうことを振り返って現状認識として表現させていただいていく。

坂本委員☞ 主旨はわかるが、突然「産業」が出てくると全般になってしまうので、産業を受ける形として「奈良の特性の…」といった言葉を入れると、読んだ時の感じは違う。

4頁の「4 安全・安心のまちづくりの対応」の現状で、「…はるかに多いことなど」が、「異常気象の頻発や」とつなげて読んでしまわれると変になるので、文章を再考いただいた方がよい。

根田委員☞ 3頁の産業振興については、この委員会でも、これから知識産業や研究所を中心にしなればいけないという話をした記憶がある。「誘致を図ってこなかった」というところでは、そのニュアンスがあるのに、最後の産業の振興のところでニュアンスが消えているのは主旨が逆の気がする。「奈良市に合うような産業」など、ある程度限定する言葉が必要に思う。

伊藤委員長☞ 「奈良市の個性を活かした」、「環境に負荷をかけない」などを入れることを検討いただきたいという意見。

高橋委員☞ 産業振興は、新しい企業を入れることだけでなく、既存の商業の活性化を含めて「振興」という表現になっていると思う。

石川委員☞ 私も、「誘致」の場合には確かに「奈良らしい企業」ということになると思うが、「振興」の場合は既存の産業も含まれるので、慎重な検討が必要と思う。

伊藤委員長☞ そのあたりも含めて検討いただく。

（市長退席）

石川委員☞ 坂本委員の4頁「4 安全・安心のまちづくりの対応」に関する指摘は私も気になったので、体言止めに統一するなど再考が必要。

また「市民生活に対する問題」は、「市民生活における問題」でないかと思う。

坂本委員☞ 9頁の③で、「歴史と未来」を合わせるのは奇異に感じる。「過去と未来」の方が良いように思う。

伊藤委員長☞ 検討していただく。

確認になるが、人口フレームを中位推計から 9,000 人増やしたものを生産年齢人口に充てていたが、これを 8,500 人とし、残り 500 人を年少人口と高齢人口に振り分けた理由は。

→〔事務局〕 各層を千単位で表記するため生産年齢人口で調整していたが、適切

でない部分があり、百単位に改めた結果である。

杉江委員☞ 35万人の将来人口が実現困難ではないかと議会から指摘があったが、我々としては、将来人口は努力目標的な認識があると思う。あらゆる施策を通して35万人に増やすという意欲を盛り込んでいるつもり。具体的にどうしていくかについては、あとの少子化対策などで人口を増やす、あるいは出生率を一気に改善するのは難しいので、近隣都市からの転入策や市外への流出防止策などを構築していくことが重要である。

総論や基本計画ではそこまで踏み込んでいないが、我々は、できるだけそういうものが見えるものをつくっていくことを意図してあえて35万にしているので、現実に施策を実行してもらわなければならないと考えていることを改めて確認しておきたい。

→〔福井副市長〕議会からは、基本計画で9,000人を増やす具体的なものが見えないと指摘されている。

高橋委員☞ 杉江委員の言葉の主旨を入れることも検討して良いのではないかな。人口減少を何とか食い止めるという意志が審議会にはあったので、「何もしなければ実現困難な数字を設定した。当然、施策に期待する」というような言葉を書き込まないとわからない部分があるかもしれない。

杉江委員☞ そのとおりと思う。今回の総合計画の一番の柱はそこにあるので、意思が見える形で示すのが良い。副市長の言うように実施計画で展開していくのだが、ここに出ていないのは適正を欠くところがある。高橋委員がおっしゃった文言が基本構想の「4 まちの指標」のところにあった方が良いと思う。

伊藤委員長☞ 基本計画の重点戦略の少子化対策の部分に表現がある。

杉江委員☞ 基本構想から読むことになるので。我々が議論してきたところが十分浸透していないというきらいがある。

高橋委員☞ 努力目標にしたらだめで、説明時に「努力目標でしたから実現できなくても仕方ない」でなく、是が非でも実現するという大きな柱としてやっていただく必要がある。

伊藤委員長☞ 都市の将来像について、9頁に説明が追加されたが、不十分であると思う。「多くの来訪者と交流」とあるが、交流には市民同士のものもある。説明が簡潔に都市の将来像につながる文章にするためにどのようにしたらよいか、ご意見をいただければと思う。

市民会議の意見を尊重して決めた経緯も踏まえつつ議論した結果であり、全体会でも将来像として長いなどの意見もあったが、妙案はなかった。今ご意見をいただければうかがうが、市から再検討を依頼されており、次の会議で検討したい。

坂本委員☞ 「②観光を始めとするビジネスモデルの創造による活気あふれるまち」で、「今までに培ってきた歴史的な文化遺産」とあるが、歴史的な文化遺産を培っ

てきたのではないと思うので、「培ってきた、歴史的な文化遺産」とするのが適切。
伊藤委員長☞ 「今までに培ってきた」を「取組」の前に入れることも考えられる。
的確な文章になるように検討いただく。

(2) 奈良市第4次総合計画（案）基本計画

- 企画政策課長が、資料に基づき、奈良市第4次総合計画（案）基本計画（総論）の修正点を説明。

○ 委員の質問・意見は次のとおり。

伊藤委員長☞ 重点戦略に「主力となる」ということで施策の追加がありました。

石川委員☞ 重点戦略3の「魅力的な商品開発による市内での消費の拡大と、」の挿入部から、市が積極的に魅力的な商品開発すると受け取った。多分、そういうのをしているところを支援するのが市の立場であると思う。

伊藤委員長☞ 前段に「観光産業のビジネスモデルを構築することで、」とあるので、市は支援する立場であることを表現しているともいえるが、施策のなかに出てくるのか。

高橋委員☞ 観光は第2部会の所管であるが、行政が主体的に商品開発することはない。ご意見のように側面的に支援する立場。

→〔事務局〕6-04-01「商工・サービス業の振興」の施策の展開方向③で「コミュニティビジネスの創業や農商工連携の支援に努める」としており、支援になるので、文章は精査する。

坂本委員☞ そこでは、「市内での消費の拡大」というように「市内」に限定しない方が良いと思う。

高橋委員☞ 「消費」には購買、費消の2つの捉え方がある。ここでは、後者のように感じる。土産物などは購買にあたるので、混同して使われないようにする必要がある。

根田委員☞ 確かに誤解を招くということもあるが、「市内での消費の拡大」が消費税収入の拡大を考えているなら、「市内」を入れても良いと思う。

産業を育成して雇用を増やし、税収を増やすことをもう少し強調しても良いように思う。

高橋委員☞ 京都に比べて観光産業が揃っているかといえば、奈良はぜい弱なところがある。観光産業の組合だけの話ではなく、各方面からの協力を求めながら、一人立ちしていただくように市として支援していく態度が必要。それによって雇用が生まれる。

伊藤委員長☞ 個々の施策の展開方向は具体的でないので、どうして産業振興してい

くのかかわからない。

高橋委員☞ 奈良の商店街の店は夜8時には閉まってしまう。宿泊客のために営業時間を延長することはコストパフォーマンス的にどうかという意見もあり、ニワトリとタマゴの議論になる。思い切って商業者にも協力いただき、その時間帯に客が訪れるような魅力的なまちづくりを並行して取り組んでいく必要がある。人件費倒れで店は開けられない。

→〔福井副市長〕市としてもお願いはしているが、開けておいて商売として成り立つものかという話になる。

杉江委員☞ 旅館・ホテルに力を入れなければならないと思う。平城遷都1300年祭でも予想を超える訪問者があったが、宿泊率は非常に低い。バスで来て、遠くから来た人は京都辺りで泊まってしまい、日が暮れるときには人はいない。とにかく奈良に泊る人がいて、食事をしたり酒を飲んだりすることにつながる。

例えば、県有地などを持っていたとしても、大規模な宿泊施設を建てないと評価できないと思う。既存産業への影響などから反対意見もあつてできないとすると、そのようなエゴがまかり通っているのでは誘致はできない。大英断をして、大阪や京都のように外資系の大規模なホテルを誘致したり、1000室くらいの施設を建て替えるなど大掛かりなものが必要。夜の賑わいだけを商店街に求めても難しいと思う。

→〔福井副市長〕大きな施設の場合、コンベンション機能も備えることになる。

バッカー利用もあるので、お客の取り合いにはならないと思う。

また、奈良をPRするとき、奈良市に泊って南に訪れていただくため、南の方も一緒にPRしている。

杉江委員☞ 例えば飛鳥とかに行く場合、京都にまた戻るというのは大変な距離になるので、これらと連携することがある。また、持論になるが、東部地区はダウンしているので、柳生や月ヶ瀬など、歴史とか景観の面でも大きなスポットがある東部地区の大開発計画などをして集客すると、奈良に泊まるということになってくる。

→〔福井副市長〕農業体験なども加えて。

杉江委員☞ 陶芸やそのような体験村でも良いが、そういった計画がないと魅力は出てこないと思う。

伊藤委員長☞ 重点戦略の観光に対しては、主力となる施策としてあげられている交通や観光などの施策間の連携が重要という意見である。

安村委員☞ 東部のとりわけ柳生については、現在市でも取り組んでおられる。世界遺産の観光とは少し違ったまちづくりと絡めた取組が必要。

また、「ビジネスモデルを構築」に対応する施策はあるのか。

→〔事務局〕6-01-01の展開方向①に記載している。

高橋委員☞ この場合のビジネスモデルとは、採算性が採れるようなビジネスモデル

というもので良いか。

伊藤委員長☞ ビジネスモデルの構築は市民会議であがってきたもの。これではよくわからないので、説明が必要。

石川委員☞ その意味では、6-01の課題に「奈良市内での消費を進め、…」とあるが、先ほどの「消費」の議論については、こちらの方がわかりやすいと思う。

伊藤委員長☞ 観光産業を振興させるための歩留まりをよくすることが基準になる。

坂本委員☞ 重点戦略のところであえて（市内での消費の拡大を）入れる必要はない。インターネットでの購入もあるし、魅力的な商品開発には広がりがある。

- 企画政策課長が、資料に基づき、奈良市第4次総合計画（案）基本計画（各論）の修正点を説明

○ 委員の質問・意見は次のとおり。

石川委員☞ 5-07-01「住宅の整備」の施策の目標では、基本施策が市営住宅に限らないものになったので、「安心して」は高齢者・障がい者に限るのではなく、「全ての人が安心して生活できる住まい」になるのではないか。

また、5-07の指標は「市営住宅の外壁改修改善実施率」しかないが、課題で「耐震基準を満たしていない住宅の耐震化促進を図る必要がある」としているのに、4-01-01の指標をここに持ってくる必要があるのではないか。

→〔事務局〕検討させていただく。

坂本委員☞ 施策の目標に関する石川委員の意見については、前段で「快適な居住環境を創出するとともに、」とあるので、高齢者や障害者を分ける形になってしまっている。「ともに、」が不適切。

伊藤委員長☞ あわせて検討いただく。

また、5-07-01は市営住宅だけの内容から、民間住宅までかなり拡充されたが、指標が少ない。住環境という意味では景観も大事な要素であり、施策の展開方向の①で都市景観形成地区に関する補助制度の充実なども考えていくなれば、件数を増やすことを目標にするなど、住環境整備の指標を増やさないとそのあたりが見えない。

高橋委員☞ 5-07-01が必ずしも市営住宅でなく、ゆとりを感じられる、あるいは安心して住める住宅づくりを推進するなかに、例えば新婚家庭が奈良市に住み替えてきた場合に、リフォーム補助などをする意識はあるのか。助成まで踏み込むなら多いに結構だが、そこまで考えていないなら表現は慎重にした方がよい。

→〔事務局〕現在は相談とか情報提供を考えている。助成は検討段階。

杉江委員☞ 高橋委員の意見は重要なポイントであり、人口を減らさない対策のなかでも転入世帯への助成など、金額は別として具体的に書く必要がある。人口増強

策はあらゆる場面に必要であり、住居は大きなポイントである。住宅の新築への補助や市営住宅の対策だけでなく、奈良市では民間のアパート・マンションや戸建て住宅が圧倒的に多いので、そこに入っただく時にどうするか。特に西の方の地域では住宅が比較的大きいわりにお年寄りが一人・二人で住んでいるので、それを貸すとか。貸すのには抵抗もあると思うので、子ども世帯が戻ってきたりする場合の改修・増築支援（補助）などもあると変わってくる。ありとあらゆる施策が必要。

少子化対策本部が置かれているが、子育てのことばかり考えられている。人口を維持するための知恵を出し合って、重層的に取り組んでいく覚悟がないと、35万人の将来人口は絵に描いた餅になる。

伊藤委員長☞ リフォーム助成などはハード施策にあたるが、子育て世代が住みやすい環境づくりという点から、家賃補助をしている自治体もある。それによる若者世代の転入は、消費による経済効果やまちの活気という効果もあるので決して無駄ではない。子育て支援と住環境を関連づけて考えて欲しい。

石川委員☞ リフォームに関しては、医療費を削減する方向として在宅を進めるための住宅バリアフリーが重要になっている。障害者のところで「バリアフリー化を進める」という記述はあるが、屋外のことと思う。誰もが住み続けられる住宅という意味では、国も補助を出しているので住宅内の対策を進めることが重要である。

伊藤委員長☞ 奈良市の現行制度、あるいは計画で考えられていることはあるか。

→〔事務局〕バリアフリーに関しては公共施設については県の助成もあるので進めているが、一般住宅に対する補助はない。対象は、介護保険を使える方のみとなる。

（３）その他

伊藤委員長☞ 今後の進め方として、拡大小委員会は全部で２回開催が予定されている。

→〔事務局〕小委員会はできればあと２回（計３回）を予定していただきたい。

伊藤委員長☞ 大変忙しい時期と思うが、ご予定いただければと思う。

本日議論できなかったところ、各論は逐次議論していく。委員会としての意見を集約して全体会に諮ることになる。

今回改めて諮問いただいた計画案は、議会特別委員会からの指摘を受け、新たな提案としてされたものである。議会特別委員会の指摘にはかなりの部分を対応されたと聞いているが、会議を効率的に進めるため、各委員には持ち帰って目を通していただきたい。

● 福井副市長より

- ・先ほど「実効性のない計画はだめ」というご意見があったが、「計画にあることを実行する。計画にないことはしない。新しく立案する計画は議会に諮る。」ので、ご理解いただきたい。
- ・委員会からは実施計画を提出せよとは言われていない。ただ、第3次総合計画の時には「主な事業」の記載もあり、「市民が見て、何を行うのかがわかるものにするべきである」との意見があった。今回は、実施計画に事業を記載することになる。
- ・以上、言葉が足りなかったかもしれないので、訂正させていただく。

● 事務局より

- ・前回会議で特別委員会からの先進都市の例として挙げた市に誤りがあったため、訂正させていただく。議会から意見のあったのは、多治見市、栗山町と隣接の生駒市の2市1町である。
- ・本日資料に関するご意見はメール、ファクシミリでお願いしたい。また、前回会議の議事録を確認し、訂正等を後日連絡いただきたい。
- ・全体会を1月18日までに開催したい。次回で結審できればよいが、できれば、11～14日の間で第9回小委員会の開催予定を確保しておきたい。

伊藤委員長☞ 今日の指摘は。

→〔事務局〕1月4日までにいただいた意見を含めて、5日の第8回小委員会の資料に反映させる予定。

伊藤委員長☞ 本日欠席の委員を含め、会議の成立要件を満たす日程を事務局で調整してもらい、予定を決める。

● 事務局より

- ・次回の第8回小委員会は1月5日の14時から17時まで、キャンベラの間で開催する。

以上